

## 2024 年第 1 四半期決算

プレスリリース

パリ、2024 年 5 月 3 日

### 2024 年第 1 四半期決算

2024 年第 1 四半期の収益は 66 億ユーロと、2023 年第 1 四半期比 0.4%減と横ばいであり、グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門、プライベートバンキング部門および国際リテールバンキング部門の業績が非常に好調であったこと、要求払預金から報酬付貯蓄へのシフトにもかかわらず、フランス国内の収益および純受取利息が 2023 年第 4 四半期比で増加したこと、ならびにエイバンス (Ayvens) においてマージンが安定し中古車販売事業の業績が正常化したことが寄与

2024 年第 1 四半期の経費率は 74.9%、営業費用は 2023 年第 1 四半期比で 1.5%減少、約 3 億 5,000 万ユーロの改革費用

2024 年第 1 四半期のリスク費用は 27 ベーシスポイント、正常債権に対する引当金残高は 33 億ユーロ<sup>1</sup>

グループ当期純利益は 6 億 8,000 万ユーロ

報告ベースの ROTE は 4.1%

### 強固な自己資本および流動性プロファイル

2024 年第 1 四半期末時点の普通株式等 Tier1 比率は 13.2%<sup>2</sup> (規制要件を約 300 ベーシスポイント上回っている)

2024 年第 1 四半期末時点の流動性カバレッジ比率は 159%

2024 年 3 月末時点の配当準備金は 1 株当たり 0.32 ユーロ<sup>3</sup>

約 2 億 8,000 万ユーロの 2023 年自社株買いプログラムを年次株主総会後に開始

### 戦略ロードマップ実行の成果

<sup>1</sup> IFRS 第 5 号会計基準の適用に伴い、SG エクイップメント・ファイナンス、ソシエテ・ジェネラル・マロケーヌ・ドゥ・バンクおよびラ・マロケーヌ・ヴィを除く。

<sup>2</sup> 段階的適用の比率、2024 年第 1 四半期実績を含む試算見積もり

<sup>3</sup> 非現金項目から修正再表示され、超劣後債および永久劣後債に係る利息控除後の、当グループ当期純利益の 50%の配当性向 (規制による 40%~50%の配当性向の上限) に基づく。

ソシエテ・ジェネラル・エクイップメント・ファイナンス<sup>1</sup>、ソシエテ・ジェネラル・マロケーヌ・ドゥ・バンクおよびラ・マロケーヌ・ヴィ<sup>2</sup>の売却に関する合意

フランス本社の合理化プロジェクトを実施、業務を簡素化し、業務効率を構造的に改善

バーンスタインを設立、リサーチおよび現物株式の新たなリーダーとして、当グループの顧客に株式バリューチェーン全体で幅広い国際サービスを提供することが可能に

当グループの最高経営責任者であるスラヴォミール・クルパは次のように述べています。

「当グループの戦略計画の実行は進展しています。グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門の力強い貢献と、国際リテールバンキング部門の堅調な収益により、営業成績は改善しました。フランス国内リテールバンキング事業は回復基調にあり、フランス国内市場の預金ベータ値が上昇したにもかかわらず、純受取利息は前四半期比で増加しました。同様に、中古車販売価格の正常化を背景に、Ayvens のマージンもすでに安定し始めています。コストは、キャピタル・マーケット・デーで発表した計画に沿って抑制されており、資本基盤もより堅固なものとなっています。戦略計画では、バーンスタインとの合併会社を立ち上げ、リサーチと現物株式の分野で新たなリーダーを創出するとともに、ソシエテ・ジェネラル・エクイップメント・ファイナンスおよびモロッコの複数の子会社の売却計画を発表しました。戦略計画で初めてこうしたポジティブな成果が生まれたことは、持続可能な収益性の源泉となる、より相乗効果を生む効率的なビジネスモデルを構築するために、全部門が取り組んだことを示しています。」

---

<sup>1</sup> 2024年4月11日付プレスリリース参照のこと。

<sup>2</sup> 2024年4月12日付プレスリリース参照のこと。

## 1. グループ連結決算

| (単位：百万ユーロ)   | 2024年<br>第1四半期 | 2023年<br>第1四半期 | 増減     |         |
|--------------|----------------|----------------|--------|---------|
| 業務粗利益        | 6,645          | 6,671          | -0.4%  | -4.8%*  |
| 営業費用         | (4,980)        | (5,057)        | -1.5%  | -6.3%*  |
| 営業総利益        | 1,665          | 1,614          | +3.2%  | +0.0%*  |
| 純リスク費用       | (400)          | (182)          | x 2.2  | x 2.1*  |
| 営業利益         | 1,265          | 1,432          | -11.7% | -15.1%* |
| その他の資産からの純損益 | (80)           | (17)           | n/s    | n/s     |
| 法人所得税        | (274)          | (328)          | -16.4% | -12.2%* |
| 当期純利益        | 917            | 1,092          | -16.0% | -22.8%* |
| うち非支配持分損益    | 237            | 224            | +5.8%  | -12.8%* |
| グループ当期純利益    | 680            | 868            | -21.7% | -25.5%* |
| ROE          | 3.6%           | 5.0%           |        |         |
| <b>ROTE</b>  | <b>4.1%</b>    | <b>5.7%</b>    |        |         |
| 経費率          | 74.9%          | 75.8%          |        |         |

本書中においてアスタリスク\*は、連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除いた数値を示す。

2024年5月2日に開催されたロレンツォ・ビーニ・スマギを議長とするソシエテ・ジェネラルの取締役会において、ソシエテ・ジェネラル・グループの2024年第1四半期決算が精査された。

### 業務粗利益

業務粗利益は2023年第1四半期比0.4%減の66億ユーロと、世界的に安定した水準となった。

フランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門の2024年第1四半期の収益は、2023年第1四半期比3.5%減の20億ユーロとなった。純受取利息は、引き続き、短期ヘッジ（約マイナス3億ユーロ）の影響や、要求払預金から金融貯蓄や利付預金（そのシェアは継続的に上昇している。）へのシフトによる影響を受けた。プライベートバンキング・保険事業では運用資産が大幅に増加し、その結果、2024年第1四半期の同事業の金融手数料は前年同期比で約10%増加した。最後に、ブルソバンクは2024年第1四半期に45万7,000の新規顧客を獲得し、力強い成長を続けているが、顧客獲得コストは依然としてサービス手数料を圧迫している。

グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門は堅調な業績を達成し、2024年第1四半期の収益は過去最高の業績をあげた2023年第1四半期比5.1%減の26億ユーロとなった。グローバルマーケッツ・インベスターサービス部門の収益は2023年第1四半期比で8.8%減少した。この減少は主にグローバルマーケッツ事業によるもので、同事業は16億ユーロと非常に堅調な収益をあげたものの、高水準だった2023年第1四半期比では7.0%減少した。この減少は、過去数年と比べて不利な市場環境の中で債券事業の収益が17%減少したことによるものである。一方、エクイティ事業の収益は、主に株式デリバティブの好調な業績により3%増加した。ファイナンス・アドバイザー事業の2024年第1四半期の収益は堅調で、2023年第1四半期比3.5%増の8億5,900万ユーロとなった。アセットファイナンス事業が好調だったほか、天然資源事業の好調な商業的モメンタムやデットキャピタルマーケッツ事業の回復も、この業績に寄与した。一方、M&A事業やエクイティキャピタルマーケッツ事業における取引量は依然として低水準にとどまった。グローバルトランザクション・ペイメ

ントサービス事業の収益は、堅調な営業実績とキャッシュマネジメント事業におけるマージンの拡大により、2023年第1四半期比で7.8%増加した。

国際リテールバンキング・モビリティ・リーシングサービス部門の収益は2023年第1四半期比で3.9%増加した。国際リテールバンキング事業の収益は両地域での堅調な営業活動を背景に、2023年第1四半期比で横ばいの10億ユーロとなった。モビリティ・リーシングサービス事業の収益は、主にリースプランの4億1,700万ユーロの寄与により、8.1%増加した。一方、Ayvensのマージンは引き続き安定し、中古車販売市場は正常化が続いている。

コーポレートセンターの2024年第1四半期の収益はマイナス1億3,700万ユーロとなった。

## 営業費用

2024年第1四半期の営業費用は、2023年第1四半期比1.5%減の49億8,000万ユーロであった。2024年第1四半期の経費率は74.9%と、2023年第1四半期の75.8%、2023年第4四半期の78.3%を下回った。

2024年第1四半期の営業費用には、リースプランの統合費用2億5,400万ユーロや、2023年第1四半期比で1億600万ユーロ増加した3億5,200万ユーロの改革費用が含まれている。改革費用の増加は主に、フランス本社の変革計画、リースプラン買収に伴うAyvensの変革、およびグローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門で進行中の複数のプロジェクトによるものであった。当グループは、2024年第1四半期にIFRIC第21号に基づく費用として3億200万ユーロを計上したが、単一破綻処理基金への拠出が終了したことから、2023年第1四半期比では6億800万ユーロの減少となった。これらの項目の修正再表示後の2024年第1四半期の営業費用は、2023年第1四半期比で1億7,100万ユーロ（約3.4%）増加し、当四半期のインフレ率を下回る小幅な増加となった。

## リスク費用

2024年第1四半期のリスク費用は27ベースポイント（4億ユーロ）となり、2024年通年のガイダンスである25~30ベースポイントの範囲内となった。その内訳は、フランス国内の特定の市場における複数の案件に係るデフォルトの影響を含む回収懸念貸出金の引当金4億9,900万ユーロ（約34ベースポイント）、および償却が続くロシア向けオフショアエクスポージャーに関連するものを中心とする、正常債権引当金の戻入れ9,900万ユーロ（約7ベースポイント）であった。

2024年3月末現在の当グループの正常債権引当金は32億8,600万ユーロと、2023年12月31日比で2億8,600万ユーロ減少した。これは、主に売却過程にある事業に対してIFRS第5号の会計基準を適用したことによるものである。

2024年3月31日時点の総額のカバレッジ比率は2.85%<sup>1</sup>であった。2024年3月31日時点の当グループの不良債権総額の純カバレッジ比率（保証および担保を考慮後のもの）は82%<sup>2</sup>であった。2024年3月31日現在、当グループはロシア向けオフショアエクスポージャーのデフォルト時エクスポージャー（EAD）を再度削減し、2023年末時点の9億ユーロから22%減の約7億ユーロとした。このポートフ

<sup>1</sup> 比率は2019年7月16日に公表された欧州銀行監督機構（EBA）の手法に従い算出されている（ソシエテ・ジェネラル・エクイップメント・ファイナンス、ソシエテ・ジェネラル・マロケーヌ・ドゥ・バンクおよびラ・マロケーヌ・ヴィを中心とする、IFRS第5号に従って現在売却過程にある企業の貸出残高を除く。）。

<sup>2</sup> S3引当金および保証・担保の合計を不良債権の帳簿価額の総額で除したもの。

オリオの最大リスクエクスポージャーは、引当金計上前で約2億ユーロと推定され、2024年3月末時点の引当金総額は1億ユーロであった。さらに、当グループは2024年2月にロシアの子会社リースプランを売却しており、現在同国ではいかなる事業も行っていない。

### その他の資産からの純損益

特にIFRS第5号に基づき、当グループは、2024年第1四半期に、主にソシエテ・ジェネラル・マロケーヌ・ドゥ・バンクとその子会社およびラ・マロケーヌ・ヴィの売却合意の発表<sup>1</sup>に伴い、コーポレートセンターにおいてその他の資産から8,400万ユーロの純損失を計上した。

---

<sup>1</sup>2024年4月12日付プレスリリースを参照のこと。

## グループ当期純利益

2024年第1四半期のグループ当期純利益は6億8,000万ユーロ<sup>1</sup>、有形自己資本利益率（ROTE）は4.1%であった。

## 財務構造

2024年3月31日時点の当グループの普通株式等 Tier1（CET1）比率は13.2%<sup>2</sup>で、規制要件を約300ベースポイント上回った。同様に、2024年3月末時点の流動性カバレッジ比率（LCR）は159%（2024年第1四半期の平均では167%）となり、規制要件を大幅に上回った。また、2024年3月末時点の安定調達比率（NSFR）は117%であった。

すべての流動性比率と自己資本比率は規制要件を大幅に上回っている。

|                           | 2024年3月31日 | 2023年12月31日 | 規制要件   |
|---------------------------|------------|-------------|--------|
| CET1 比率 <sup>1</sup>      | 13.2%      | 13.1%       | 10.22% |
| CET1 比率（全面適用）             | 13.2%      | 13.0%       | 10.22% |
| Tier1 比率 <sup>1</sup>     | 15.8%      | 15.6%       | 12.14% |
| 総自己資本比率 <sup>1</sup>      | 18.7%      | 18.2%       | 14.71% |
| レバレッジ比率                   | 4.2%       | 4.3%        | 3.6%   |
| TLAC（RWA比） <sup>1</sup>   | 32.5%      | 31.9%       | 22.28% |
| TLAC（レバレッジ比） <sup>1</sup> | 8.6%       | 8.7%        | 6.75%  |
| MREL（RWA比） <sup>1</sup>   | 34.2%      | 33.7%       | 27.24% |
| MREL（レバレッジ比） <sup>1</sup> | 9.1%       | 9.2%        | 6.08%  |
| 期末 LCR                    | 159%       | 160%        | >100%  |
| 期中平均 LCR                  | 167%       | 155%        | >100%  |
| NSFR                      | 117%       | 119%        | >100%  |

| （単位：10 億ユーロ）           | 2024年3月31日 | 2023年12月31日 |
|------------------------|------------|-------------|
| 連結貸借対照表総額              | 1,591      | 1,554       |
| グループ株主資本               | 67         | 66          |
| リスクアセット（RWA）           | 388        | 389         |
| うち信用リスク                | 326        | 326         |
| 調達貸借対照表総額 <sup>3</sup> | 961        | 970         |
| 顧客貸出金                  | 468        | 497         |
| 顧客預金                   | 606        | 618         |

2024年4月18日現在、親会社は総額285億ユーロの中長期債を発行しており、うち174億ユーロがバニラ債であった。子会社は33億ユーロの中長期債を発行している。当グループ全体では、総額318億ユーロの中長期債を発行している。

<sup>1</sup> IFRS第34号の適用にあたり、推定年間実効税率の約23%に基づいて調整した2億7,400万ユーロの四半期法人所得税計上後

<sup>2</sup> 段階的適用の比率、2024年第1四半期実績を含む試算見積もり

<sup>3</sup> 既に公表した、SGエクイップメント・ファイナンスおよびモロッコ事業の売却に関するIFRS第5号の適用に伴い修正再表示された項目は、「その他資産」（顧客貸出金220億ユーロおよび顧客預金90億ユーロ）に純額で計上された。

当グループは 4 社の格付け機関から格付けを付与されている。各社からの格付けは、(i) フィッチ・レーティングスからは長期格付け「A-」（安定的）、上位優先債格付け「A」および短期格付け「F1」、(ii) ムーディーズからは長期格付け（上位優先債）「A1」（安定的）および短期格付け「P-1」、(iii) R&I からは長期格付け（上位優先債）「A」（安定的）、(iv) S&P グローバル・レーティングからは長期格付け（上位優先債）「A」（安定的）および短期格付け「A-1」となっている。

## ESG

ソシエテ・ジェネラルは、ネット・ゼロ・バンキング・アライアンス（NZBA）との協働の一環として、航空セクターに関する新たなアライメント目標を自ら設定した。当グループは、ペガサス・ガイドラインの手法を用い、コロナ危機の航空輸送への影響を排除するために選択された基準年である 2019 年に対し、2030 年までに炭素排出原単位を 18%削減する（2019 年の 943g CO<sub>2</sub>e/RTK から 2030 年までに 775g CO<sub>2</sub>e/RTK に削減する）ことを目標としている<sup>1</sup>。

ソシエテ・ジェネラルは、RMI（ロッキー・マウンテン・インスティテュート）および他の 4 つの銀行と共同で、ペガサス・ガイドラインの創設メンバーとなっている。この世界初のガイドラインは、銀行が航空機融資ポートフォリオの排出量を一貫した包括的な方法で測定し、開示することを可能にするものである。

さらに、当グループの BRD と世界銀行グループの一員である国際金融公社（IFC）は、画期的なシンセティックリスク移転（SRT）取引を完了した。同取引は、BRD が供与する中小企業（SME）のポートフォリオに IFC がリスク保証を提供するもので、サステナブルファイナンス・プロジェクトへの支援を強化し、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に貢献するため、2024 年初めにソシエテ・ジェネラルと IFC の間で締結された契約の一環である。

そのリーダーシップの証として、ソシエテ・ジェネラルは、「事業全般にわたる変革の加速と定着の成功」を評価した IFR の「バンク・フォー・サステナビリティ」や、グローバル・ファイナンスの「サステナブルファイナンスにおける世界のベストバンク 2024」など、数々の名誉ある賞に再び選定された。これらの受賞は、当グループが事業活動のあらゆる側面において、ESG を変革し、構築し、加速させ、定着させるために実施した取り組みが評価されたものである。

---

<sup>1</sup> この目標は、ミッション・ポッシブル・パートナーシップ・プルーデント（MPP PRU）のシナリオよりも低いアライメントスコアに相当する。ポートフォリオを 1.5°C の軌道に整合させると、原単位目標は 781g CO<sub>2</sub>e/RTK となる。

## 2. フランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門

| (単位：百万ユーロ)              | 2024 年<br>第 1 四半期 | 2023 年<br>第 1 四半期 | 増減      |
|-------------------------|-------------------|-------------------|---------|
| 業務粗利益                   | 2,010             | 2,083             | -3.5%   |
| PEL/CEL 引当金の影響を除いた業務粗利益 | 2,011             | 2,093             | -3.9%   |
| 営業費用                    | (1,728)           | (1,837)           | -5.9%   |
| 営業総利益                   | 282               | 246               | +14.6%  |
| 純リスク費用                  | (247)             | (89)              | x2.8    |
| 営業利益                    | 35                | 157               | -77.7%  |
| その他の資産からの純損益            | 0                 | 5                 | -100.0% |
| グループ当期純利益               | 27                | 121               | -77.7%  |
| RONE                    | 0.7%              | 3.1%              |         |
| 経費率                     | 86.0%             | 88.2%             |         |

### SG ネットワーク、プライベートバンキング、保険

SG ネットワークの平均貸出残高は、2023 年第 4 四半期比 1.2%減（2023 年第 1 四半期比 5%減）の 1,990 億ユーロとなった。政府保証融資（PGE）を除く法人および専門家顧客向けの貸出残高は、短期貸出に牽引され、2023 年第 1 四半期比で 1.2%増加した（PGE は 2023 年第 1 四半期比 33%減）。住宅ローンの組成の積極的な回復に伴って住宅ローンの契約数は 2023 年第 4 四半期から倍増し、低水準から脱した。

SG ネットワークの法人顧客および専門家顧客を含む平均預金残高は、2024 年第 1 四半期に 2,330 億ユーロとなった。要求払預金から利付預金および金融貯蓄へのシフトが続いたものの、預金は 2023 年第 4 四半期比横ばいであった（2023 年第 1 四半期比 5.0%減）。

その結果、2024 年第 1 四半期の平均預貸率は 85.4%と、2023 年第 1 四半期比横ばいであった。

フランス国内外のプライベートバンキング業務を含むプライベートバンキング事業では、2024 年第 1 四半期の運用資産が過去最高の 1,490 億ユーロを記録した。2024 年第 1 四半期の純資産拡大ペース（正味新規資金を運用資産で除したものは平均 6%増加し、純資産のインフローは総額 21 億ユーロとなった。2024 年第 1 四半期の業務粗利益は 2023 年第 1 四半期比 2.5%増の 3 億 7,500 万ユーロとなった。

フランス国内外の業務を含む保険事業は堅調な実績を上げた。2024 年 3 月末現在の生命保険事業の残高は 2023 年第 1 四半期比で 6%増加し、過去最高の 1,410 億ユーロに達した。ユニットリンク商品のシェアはなお高水準の 39%を維持し、2023 年第 1 四半期比で 2 パーセントポイント上昇した。2024 年第 1 四半期の生命保険貯蓄のインフロー総額は、2023 年第 1 四半期比 68%増の 61 億ユーロに達した。

保障保険の保険料は、損害保険の保険料の商業的モメンタムの好調を背景に 2023 年第 1 四半期比で 4%増加した。

### ブルソバンク

フランス国内有数のオンラインバンクの顧客数は、2024 年 3 月末現在 630 万に達した。高水準の新規顧客の獲得（2024 年第 1 四半期に 45 万 7,000 の新規顧客）が奏功し、2023 年第 1 四半期比では正味 140 万の増加となった。解約率は低水準にとどまり、当四半期も引き続き低下した。



ブルソバンクは、フランス銀行部門における顧客満足度で5年連続の1位を記録した<sup>1</sup>。

ブルソバンクの平均貸出残高（2024年第1四半期は150億ユーロ）は、昨年まで採用されてきた選別的な新規組成方針により2023年第1四半期比で2.5%減少したが、住宅ローンの契約数は回復に転じた（2023年第4四半期比13%増）。消費者ローンの残高は、2023年第4四半期比で1.7%減少した（2023年第1四半期比11.9%減）。

預金および金融貯蓄を含む平均貯蓄残高は大幅増を記録し、580億ユーロとなった（2023年第1四半期比14%増）。預金は、過去最高の預金インフローを受けて2023年第1四半期比で18%増加し、市場シェアの拡大が実現できた。生命保険貯蓄の残高は2023年第1四半期比4.0%増の120億ユーロとなり（ユニットリンク商品のシェアは46%と、2023年第1四半期比で4.4パーセントポイント上昇）、2024年第1四半期の有機的な保険のインフロー総額は大幅に回復した（2023年第1四半期比20%増）。

2024年3月末現在、ブルソバンクの収益は2023年第1四半期比で20%増加した（PEL/CEL引当金の影響および新規顧客獲得コストを除く。）。

### 業務粗利益

2024年第1四半期の収益は20億1,000万ユーロと、PEL/CEL引当金の影響を除いて2023年第1四半期比で3.9%減少した。

PEL/CEL引当金の影響を除いたフランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門の純受取利息は、2023年第4四半期比3.1%増の8億2,200万ユーロとなった（2023年第1四半期比2.9%減）。増加のペースが想定していたシナリオの下限に近くなったのは、特に利付預金および金融貯蓄へのシフトにより要求払預金の残高が減少したためである。保険収益を含む手数料収入は、2023年第1四半期比で1.6%、2023年第4四半期比で8.0%それぞれ増加した。

### 営業費用

2024年第1四半期の営業費用は17億2,800万ユーロで、2023年第1四半期比で5.9%減少した。営業費用には約8,000万ユーロの改革費用が含まれている。2024年第1四半期の経費率は86.0%と、2023年第1四半期比で2.2パーセントポイント改善した。

### リスク費用

2024年第1四半期のリスク費用は2億4,700万ユーロ、すなわち41ベースポイントとなり、2023年第4四半期（27ベースポイント）および2023年第1四半期（14ベースポイント）より高くなった。これは主にフランス国内で特定の市場における案件についてデフォルトが発生したことによるものである。

### グループ当期純利益

2024年第1四半期のグループ当期純利益は総額2,700万ユーロであった。

<sup>1</sup>他の銀行と同率1位。ベイン・アンド・カンパニー、2024年3月

### 3. グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門

| (単位：百万ユーロ)  | 2024年        | 2023年        | 増減            |                |
|-------------|--------------|--------------|---------------|----------------|
|             | 第1四半期        | 第1四半期        |               |                |
| 業務粗利益       | 2,623        | 2,764        | -5.1%         | -5.0%*         |
| 営業費用        | (1,757)      | (2,072)      | -15.2%        | -15.0%*        |
| 営業総利益       | <b>866</b>   | <b>692</b>   | <b>+25.1%</b> | <b>+24.9%*</b> |
| 純リスク費用      | 19           | (5)          | n/s           | n/s            |
| 営業利益        | <b>885</b>   | <b>687</b>   | <b>+28.8%</b> | <b>+28.4%*</b> |
| グループ当期純利益   | <b>690</b>   | <b>546</b>   | <b>+26.4%</b> | <b>+25.9%*</b> |
| <b>RONE</b> | <b>18.6%</b> | <b>13.8%</b> |               |                |
| 経費率         | <b>67.0%</b> | <b>75.0%</b> |               |                |

#### 業務粗利益

2024年第1四半期のグローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門は引き続き力強い業績を達成し、収益は26億2,300万ユーロに上ったが、過去最高となった2023年第1四半期比では5.1%の減少となった。

2024年第1四半期のグローバルマーケット・インベスターサービス事業は17億6,400万ユーロに上る堅調な収益を計上したものの、特に2023年第1四半期に非常に好調だった市場収益と証券サービス事業への資本参加の再評価から生じた不利なベース効果が響き、高水準の2023年第1四半期比8.8%減であった。

2024年第1四半期のグローバルマーケット事業の業績は全体的に底堅いものであったが、債券・為替事業を中心に正常化が進む市場環境の中、収益は2023年第1四半期比7.0%減の16億300万ユーロにとどまった。

エクイティ事業は極めて好調な業績を達成し、2024年第1四半期の収益は2023年第1四半期比3.1%増の8億7,000万ユーロに上った。株式指数の上昇とデリバティブにおける力強い商業的モメンタムが当事業を後押しした。

債券・為替事業は好業績を記録した。収益は7億3,300万ユーロとなったが、インベストメントソリューションズ事業の顧客業務サポートの寄与が目立った。一方で、フロー業務にとって特に打撃となった金利のボラティリティの低減から生じた不利な市場環境が響いたことで、収益は2023年第1四半期比16.7%減にとどまった。

証券サービス事業の収益は23.3%減の1億6,100万ユーロとなったが、これは、資本参加に対する再評価と配当に関連する2023年第1四半期のベース効果に起因する。こうした1回限りの項目の影響を除くと収益は2023年第1四半期比4.8%減となる。カストディ資産および管理資産はそれぞれ4兆9,440億ユーロおよび5,820億ユーロとなった。

ファイナンス・アドバイザー事業は2023年第1四半期比3.5%増の8億5,900万ユーロに上る力強い収益を計上した。

グローバルバンキング・アドバイザー事業の収益は引き続き堅調に推移し、2023年第1四半期比2.1%増となった。資産担保商品プラットフォームに対する力強い需要と天然資源プラットフォームにおける好調な商業的モメンタムが当事業を特に後押しした。インベストメントバンキング業務では、デットキャピタルマーケット業務が引き続き回復基調となったものの、M&A業務およびエクイティキャピタルマーケット業務における取扱高が依然低水準にとどまった。

グローバルランザクション・ペイメントサービス事業は昨年と比べると非常に堅固な業績を上げており、力強い商業的モメンタムと依然として有利な市場状況を背景に収益は7.8%増となった。

### 営業費用

2024年第1四半期の営業費用は17億5,700万ユーロとなった。これには、約1億5,000万ユーロの改革費用が含まれる。営業費用は2023年第1四半期比で15.2%と大幅に減少したが、これは特に2023年第1四半期の営業費用の中で4億9,100万ユーロを占め大きな負担となっていた単一破綻処理基金への拠出が消滅したことで説明される。この結果、2024年第1四半期の経費率は67.0%となった。

### リスク費用

2024年第1四半期のリスク費用は、1,900万ユーロに相当する純戻入額を計上したため、2023年第1四半期の1ベースポイントに対してマイナス5ベースポイントとなった。これは、ロシアのオフショアポートフォリオに対するステージ1とステージ2の引当金に対する戻入れであった。

### グループ当期純利益

2024年第1四半期のグループ当期純利益は2023年第1四半期比26.4%増の6億9,000万ユーロであった。

グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門は当四半期に18.6%のRONEを計上した。

#### 4. 国際リテールバンキング・モビリティ・リーシングサービス部門

| (単位：百万ユーロ)   | 2024 年<br>第 1 四半期 | 2023 年<br>第 1 四半期 | 増減            |                |
|--------------|-------------------|-------------------|---------------|----------------|
| 業務粗利益        | 2,149             | 2,068             | +3.9%         | -13.2%*        |
| 営業費用         | (1,352)           | (1,088)           | +24.3%        | +2.6%*         |
| 営業総利益        | <b>797</b>        | <b>980</b>        | <b>-18.7%</b> | <b>-30.9%*</b> |
| 純リスク費用       | (181)             | (91)              | +98.9%        | +82.5%*        |
| 営業利益         | <b>616</b>        | <b>889</b>        | <b>-30.7%</b> | <b>-43.0%*</b> |
| その他の資産からの純損益 | 4                 | (1)               | n/s           | +19.2%*        |
| グループ当期純利益    | <b>272</b>        | <b>476</b>        | <b>-42.9%</b> | <b>-52.2%*</b> |
| <b>RONE</b>  | <b>10.4%</b>      | <b>20.8%</b>      |               |                |
| 経費率          | <b>62.9%</b>      | <b>52.6%</b>      |               |                |

国際リテールバンキング事業<sup>1</sup>は、貸出残高が 660 億ユーロと 2023 年第 1 四半期比で 1.6%増加した（2023 年第 1 四半期比 5.8%増\*）。預金残高は総額 810 億ユーロとなり、2023 年第 1 四半期比で 2.5%増加した（2023 年第 1 四半期比 7.3%増\*）。

欧州では、貸出残高が 2024 年 3 月末時点で総額 410 億ユーロと、2023 年第 1 四半期比で横ばいだったが、連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除くと 6.3%増加\*した。貸出は、個人および法人の両顧客セグメントとも、また両国ともに増加した（ルーマニアは 2023 年第 1 四半期比 11.7%増\*、チェコ共和国は 2023 年第 1 四半期比 4.9%増\*）。預金残高は 2024 年 3 月末時点で総額 540 億ユーロと、2023 年第 1 四半期比で 2.3%増加した（2023 年第 1 四半期比 8.5%増\*）。この増加は、ルーマニア（2023 年第 1 四半期比 13.6%増\*）とチェコ共和国の法人顧客（2023 年第 1 四半期比 17.1%増\*）が牽引した。

アフリカ、地中海沿岸地域およびフランス海外領域<sup>1</sup>は堅調な業績を記録した。貸出残高は総額 250 億ユーロ、預金残高は総額 270 億ユーロで、2023 年 3 月末時点と比較してそれぞれ 5.1%増\*、4.8%増\*となった。

モビリティ・リーシングサービス事業は堅調な実績を上げた。Ayvens の収益資産は 2024 年 3 月末現在、2023 年 3 月末時点の 470 億ユーロに対して 12.5%増の 530 億ユーロとなった（2023 年 12 月末比 1.4%増）。

消費者金融事業は、2024 年 3 月末現在の貸出残高が 240 億ユーロとなった。依然不透明な経済状況およびインフレ環境により、2023 年 3 月末比で 2.3%と小幅減少した。

設備ファイナンス事業は堅調な商業的モメンタムを示し、リース残高は引き続き 2023 年第 1 四半期比で 2.7%増加し（2024 年第 1 四半期に 150 億ユーロ）、預金については 34.6%増加した（2024 年第 1 四半期に 20 億ユーロ）。

#### 業務粗利益

2024 年第 1 四半期の国際リテールバンキング・モビリティ・リーシングサービスの収益は、2023 年第 1 四半期比 3.9%増の 21 億 4,900 万ユーロとなった。当四半期は主にリースプランによる 4 億 1,700 万ユーロの収益の貢献が大きかった（リースプランは 2023 年 5 月末から統合されたため、2023 年第 1 四半期の収益には認識されていない。）。

<sup>1</sup>モロッコの残高を含む。

国際リテールバンキング事業の当四半期の業務粗利益は 10 億 3,300 万ユーロで、2023 年第 1 四半期比で横ばいとなり、連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除いて 3.4%増加\*した。

欧州は 2024 年第 1 四半期に 4 億 9,000 万ユーロの堅実な収益をあげ、2023 年第 1 四半期比で 1%増加\*した（為替レートの影響を含むと 3.2%減）。この実績は、ルーマニアでの純受取利息の継続的増加（2023 年第 1 四半期比 4.3%増\*）、およびチェコ共和国での純受取利息の正常化をよく示している。

アフリカ、地中海沿岸地域およびフランス海外領域の 2024 年第 1 四半期の業務粗利益は、2023 年第 1 四半期比の純受取利息が 8.1%増\*、手数料収入が 8.4%増\*となったことから、2023 年第 1 四半期比 5.9%増\*の 5 億 4,300 万ユーロとなった。

モビリティ・リーシングサービス事業の 2024 年第 1 四半期の収益は、2023 年第 1 四半期比 8.1%増の 11 億 1,600 万ユーロとなった。

**Ayvens** は、マージン<sup>1</sup>が 522 ベーシスポイント<sup>2</sup>となったことにより、2024 年第 1 四半期の業務粗利益が 2023 年第 1 四半期比で 14.0%増加した。ユーロ建では 2023 年第 4 四半期比で 3.7%増加した。2024 年第 1 四半期の中古車販売の平均実績は、中古車販売市場が正常化するなか（2023 年第 4 四半期は 1,706 ユーロ、2023 年第 1 四半期は 3,102 ユーロ）、1 台あたり 1,661 ユーロの高水準となった（減価償却費の減少と取得原価の配分の影響を除く。）。正常化に関していえば、当四半期は車両の再評価と減価償却費減少の影響が限定的であった（2023 年第 1 四半期の 1 億 7,400 万ユーロに対して 2024 年第 1 四半期は 1,800 万ユーロ）。

リースプランの統合は予定通りに進んでおり、当四半期は初の収益シナジーとなる 2,000 万ユーロを実現した。2024 年に 1 億 2,000 万ユーロ達成という目標は軌道に乗っている。

2024 年第 1 四半期の消費者金融事業の業務粗利益は、2023 年第 1 四半期比で 5.2%減少した。設備ファイナンス事業の収益は 2023 年第 1 四半期比で 2.0%減少した。

## 営業費用

2024 年第 1 四半期の営業費用は 13 億 5,200 万ユーロと、2023 年第 1 四半期比で 24.3%増加した（連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除くと 2.6%増\*）。これには、約 2 億 5,000 万ユーロのリースプランの費用、および約 7,000 万ユーロの改革費用が影響している。2024 年第 1 四半期の経費率は 62.9%であった。

国際リテールバンキング部門の 2024 年第 1 四半期の営業費用は 6 億 5,000 万ユーロと、インフレ環境の中で 2023 年第 1 四半期比で 2.5%増加した。

モビリティ・リーシングサービス事業の 2024 年第 1 四半期の営業費用は、主にリースプランの統合およびそれに伴う改革費用により、54.6%増の 7 億 200 万ユーロとなった。為替レートの変動による影響を除くと、2023 年第 1 四半期比で 4.2%減少\*した。

## リスク費用

2024 年第 1 四半期のリスク費用は 1 億 8,100 万ユーロとなり、特に低かった 2023 年第 1 四半期の 27 ベーシスポイントに対して 43 ベーシスポイントに上昇した。

<sup>1</sup> 非経常項目と取得原価の配分（リースプラン買収価格の金融部分設定の影響）を除く。

<sup>2</sup> 年率換算し、平均収益資産に対する比率でみたもの。

## グループ当期純利益

2024 年第 1 四半期のグループ当期純利益は、2023 年第 1 四半期比 42.9%減の 2 億 7,200 万ユーロとなった。2024 年第 1 四半期の RONE は 10.4%であった。2024 年第 1 四半期の国際リテールバンキング部門の RONE は 12.3%、モビリティ・リーシングサービス事業の RONE は 9.2%であった。

## 5. コーポレートセンター

| (単位：百万ユーロ)   | 2024 年<br>第 1 四半期 | 2023 年<br>第 1 四半期 |
|--------------|-------------------|-------------------|
| 業務粗利益        | (137)             | (244)             |
| 営業費用         | (143)             | (60)              |
| 営業総利益        | <b>(280)</b>      | <b>(304)</b>      |
| 純リスク費用       | 9                 | 3                 |
| その他の資産からの純損益 | (84)              | (21)              |
| のれんの減損       | -                 | -                 |
| 法人所得税        | 83                | 73                |
| グループ当期純利益    | <b>(309)</b>      | <b>(275)</b>      |

コーポレートセンターには以下の項目が含まれる。

- 当グループ本社の不動産管理
- 当グループの株式ポートフォリオ
- 当グループの財務担当部署
- 部門横断的なプロジェクトに関連する特定の費用および事業部門にラインボイスされない当グループの特定の費用

### 業務粗利益

2024 年第 1 四半期のコーポレートセンターの業務粗利益の総額は、2023 年第 1 四半期のマイナス 2 億 4,400 万ユーロに対し、マイナス 1 億 3,700 万ユーロとなった。

### 営業費用

2024 年第 1 四半期の営業費用の総額は、2023 年第 1 四半期の 6,000 万ユーロに対し、1 億 4,300 万ユーロとなった。この中には約 5,000 万ユーロの改革費用が含まれている。

### その他の資産からの純損失

IFRS 第 5 号に基づき、当グループは、2024 年 4 月 12 日に発表した子会社ソシエテ・ジェネラル・マロケーヌ・ドゥ・バンクおよびラ・マロケーヌ・ヴィの売却に伴い 8,400 万ユーロの費用を計上した。

### グループ当期純利益

2024 年第 1 四半期のコーポレートセンターの当期純利益の総額は、2023 年第 1 四半期のマイナス 2 億 7,500 万ユーロに対し、マイナス 3 億 900 万ユーロとなった。

## 6. 2024年および2025年の財務情報開示日程

### 2024年および2025年の財務情報開示日程

|             |                             |
|-------------|-----------------------------|
| 2024年5月22日  | 合同株主総会                      |
| 2024年5月27日  | 配当落ち日                       |
| 2024年5月29日  | 配当支払日                       |
| 2024年8月1日   | 2024年第2四半期決算および2024年上半期決算   |
| 2024年10月31日 | 2024年第3四半期決算および2024年1~9月期決算 |
| 2025年2月6日   | 2024年第4四半期決算および2024年通期決算    |

中核事業部門の業務粗利益、営業費用、リスク費用（ベースポイント）、ROE（自己資本利益率）、ROTE（有形自己資本利益率）、RONE（基準自己資本利益率）、純資産、有形純資産、異なる修正再表示の根拠となる金額の概念等の代替的業績指標（Alternative Performance Measures）は財務情報の基準となる事項に、健全性比率を公表する際の原則とともに記載されている。

本文書にはソシエテ・ジェネラル・グループの目標・戦略に関連した将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、一般事項および特別事項の両方、特に欧州連合が採択している国際財務報告基準（IFRS）に準拠した会計原則・方法の適用、ならびに既存の健全性規制の適用を含む、一連の前提に基づいています。

また、これらの将来の見通しに関する記述は、所与の競争・規制環境下における複数の経済前提に基づくシナリオに則して作成されました。当グループは以下を行うことができない場合があります。

- 当グループの事業に影響をもたらす可能性のあるすべてのリスク要因、不確実性要因またはその他の要因を予測すること、およびそれらが与える可能性のある影響を評価すること。
- リスクまたは複合リスクの発生により、実際の業績が本文書および関連資料に記載されている業績の見通しからの程度大きく乖離するかを判断すること。

したがって、ソシエテ・ジェネラルはこれらの記述は合理的な仮定に基づいていると考えているものの、かかる将来の見通しに関する記述は、当行もしくは当行の経営陣が認知していない事項または現状で重大とみなされていない事項を含む、数々のリスクおよび不確実性に左右され、予想していた事象が発生する保証、または設定していた目標が実際に達成される保証はありません。実際の業績を、将来の見通しに関する記述で予想されている業績とは大きく異なるものにしうる重要な要因には、とりわけ、一般的経済活動の全体的な傾向、およびより具体的にはソシエテ・ジェネラルの市場における全体的な傾向、規制や健全性に関する変更、ならびにソシエテ・ジェネラルの戦略、経営および財政に関する取組みの成功が含まれます。

ソシエテ・ジェネラルの財務業績に影響を及ぼす可能性のある潜在的リスクについてのより詳細な情報は、フランス金融市場庁（Autorité des Marchés Financiers）に提出された「Universal Registration Document（年次報告書）」（<https://investors.societegenerale.com/en>にて閲覧可能）の「Risk Factors」のセクションをご覧ください。

投資家の皆さまにおかれましては、かかる将来の見通しに関する記述に含まれる情報をご参考にされる際には、当グループの業務に影響をもたらす可能性のある不確実性要因およびリスク要因を考慮されるようお勧めします。適用ある法律で義務付けられている場合を除き、ソシエテ・ジェネラルは、将来の見通しに関する情報または記述の内容を更新または改正するいかなる義務も負いません。特に明記しない限り、事業ランキングおよび市場ポジションは内部資料によるものです。



## 7. 付属書類 1：財務情報

### 主力事業部門のグループ当期純利益

| (単位：百万ユーロ)                           | 2024 年<br>第 1 四半期 | 2023 年<br>第 1 四半期 | 増減            |
|--------------------------------------|-------------------|-------------------|---------------|
| フランス国内リテールバンキング・<br>プライベートバンキング・保険部門 | 27                | 121               | -77.7%        |
| グローバルバンキング・<br>インベスターソリューションズ部門      | 690               | 546               | +26.4%        |
| 国際リテールバンキング・<br>モビリティ・リーシングサービス部門    | 272               | 476               | -42.9%        |
| <b>主力事業部門</b>                        | <b>989</b>        | <b>1,143</b>      | <b>-13.5%</b> |
| コーポレートセンター                           | (309)             | (275)             | -12.4%        |
| <b>当グループ</b>                         | <b>680</b>        | <b>868</b>        | <b>-21.7%</b> |

### 主な特別項目

| (単位：百万ユーロ)                         | 2024 年<br>第 1 四半期 | 2023 年<br>第 1 四半期 |
|------------------------------------|-------------------|-------------------|
| 営業費用 - 一時費用および改革費用合計               | <b>352</b>        | <b>246</b>        |
| 改革費用                               | <b>352</b>        | <b>246</b>        |
| うちフランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門 | 81                | 150               |
| うちグローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門      | 154               | 29                |
| うち国際リテールバンキング・モビリティ・リーシングサービス部門    | 69                | 67                |
| うちコーポレートセンター部門                     | 47                | 0                 |
| その他一時費用 - 合計                       | <b>(80)</b>       | <b>0</b>          |
| その他の資産の純損益 - 売却                    | (80)              | 0                 |

## 連結貸借対照表

| (単位：百万ユーロ)                | 2024年            | 2023年            |
|---------------------------|------------------|------------------|
|                           | 3月31日            | 12月31日           |
| 現金および中央銀行預け金              | 217,727          | 223,048          |
| 純損益を通じて公正価値で測定する金融資産      | 531,406          | 495,882          |
| ヘッジ目的デリバティブ               | 9,450            | 10,585           |
| その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産 | 89,666           | 90,894           |
| 償却原価で測定する有価証券             | 28,363           | 28,147           |
| 償却原価で測定する銀行預け金            | 82,980           | 77,879           |
| 償却原価で測定する顧客貸出金            | 459,254          | 485,449          |
| 金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額  | (973)            | (433)            |
| 保険事業および再保険契約資産            | 400              | 459              |
| 税金資産                      | 4,545            | 4,717            |
| その他の資産                    | 73,061           | 69,765           |
| 売却目的保有非流動資産               | 28,581           | 1,763            |
| 持分法適用投資                   | 228              | 227              |
| 有形および無形固定資産               | 60,927           | 60,714           |
| のれん                       | 4,946            | 4,949            |
| <b>合計</b>                 | <b>1,590,561</b> | <b>1,554,045</b> |

| (単位：百万ユーロ)               | 2024年            | 2023年            |
|--------------------------|------------------|------------------|
|                          | 3月31日            | 12月31日           |
| 中央銀行預り金                  | 10,642           | 9,718            |
| 純損益を通じて公正価値で測定する金融負債     | 399,512          | 375,584          |
| ヘッジ目的デリバティブ              | 17,530           | 18,708           |
| 発行債券                     | 166,617          | 160,506          |
| 銀行預り金                    | 113,207          | 117,847          |
| 顧客預金                     | 530,947          | 541,677          |
| 金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額 | (6,432)          | (5,857)          |
| 税金負債                     | 2,274            | 2,402            |
| その他の負債                   | 95,428           | 93,658           |
| 売却目的保有非流動負債              | 18,151           | 1,703            |
| 保険契約関連負債                 | 144,868          | 141,723          |
| 引当金                      | 4,236            | 4,235            |
| 劣後債務                     | 15,798           | 15,894           |
| <b>負債合計</b>              | <b>1,512,778</b> | <b>1,477,798</b> |
| <b>株主資本</b>              | -                | -                |
| <b>株主資本、グループ持分</b>       | -                | -                |
| 発行済普通株式および資本準備金          | 21,277           | 21,186           |
| その他の資本性金融商品              | 9,847            | 8,924            |
| 利益剰余金                    | 35,196           | 32,891           |
| 純利益                      | 680              | 2,493            |

|                          |                  |                  |
|--------------------------|------------------|------------------|
| 小計                       | <b>67,000</b>    | <b>65,494</b>    |
| 未実現・繰延キャピタルゲインおよびキャピタルロス | 342              | 481              |
| 資本、グループ持分小計              | <b>67,342</b>    | <b>65,975</b>    |
| 非支配持分                    | 10,441           | 10,272           |
| 株主資本合計                   | <b>77,783</b>    | <b>76,247</b>    |
| 合計                       | <b>1,590,561</b> | <b>1,554,045</b> |

## 8. 付属書類2：財務情報の基準となる事項

1 - 2024 年第 1 四半期に関する財務情報は、2024 年 5 月 2 日開催の取締役会において精査されており、当該日付において適用され、欧州連合が採択している国際財務報告基準（IFRS）に準拠した方法により作成されている。かかる情報は、監査を受けていない。

### 2- 業務粗利益

中核事業部門の業務粗利益はソシエテ・ジェネラルの 2024 年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の 42 ページに定義されている。「収益」および「業務粗利益」は同義語として使用されている。これらは、各事業に対する標準的資本配分を考慮した上での、各中核事業部門の業務粗利益の正規化した数値を提供している。

### 3- 営業費用

営業費用は、2023 年 12 月 31 日付の当グループの連結財務諸表の注 5 に記載されている「営業費用」を指す。また、営業費用について言及する際、「費用」という用語も使われている。経費率はソシエテ・ジェネラルの 2024 年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の 42 ページに定義されている。

### 4- リスク費用（ベースポイント表示）、回収懸念残高のカバレッジ比率

リスク費用はソシエテ・ジェネラルの 2024 年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の 43 ページおよび 770 ページに定義されている。当該指標により、各中核事業部門のリスク水準を、貸借対照表上のローンコミットメント（オペレーティングリースを含む。）のパーセンテージとして評価することが可能となる。

| (単位：百万ユーロ)                        |                 | 2024 年<br>第 1 四半期 | 2023 年<br>第 1 四半期 |
|-----------------------------------|-----------------|-------------------|-------------------|
| フランス国内リテールバンキング部門                 | 純リスク費用          | 247               | 89                |
|                                   | 貸出残高総額          | 238,394           | 252,689           |
|                                   | ベースポイント表示のリスク費用 | <b>41</b>         | <b>14</b>         |
| グローバルバンキング・<br>インベスターソリューションズ部門   | 純リスク費用          | (19)              | 5                 |
|                                   | 貸出残高総額          | 162,457           | 177,590           |
|                                   | ベースポイント表示のリスク費用 | <b>(5)</b>        | <b>1</b>          |
| 国際リテールバンキング・<br>モビリティ・リーシングサービス部門 | 純リスク費用          | 181               | 91                |
|                                   | 貸出残高総額          | 167,892           | 134,988           |
|                                   | ベースポイント表示のリスク費用 | <b>43</b>         | <b>27</b>         |
| コーポレートセンター                        | 純リスク費用          | (9)               | (3)               |
|                                   | 貸出残高総額          | 23,365            | 16,537            |
|                                   | ベースポイント表示のリスク費用 | <b>(15)</b>       | <b>(6)</b>        |
| ソシエテ・ジェネラル・グループ                   | 純リスク費用          | 400               | 182               |
|                                   | 貸出残高総額          | 592,108           | 581,804           |
|                                   | ベースポイント表示のリスク費用 | <b>27</b>         | <b>13</b>         |

回収懸念残高総額のカバレッジ比率は、規則上、デフォルトに陥っていると特定された残高総額に対する信用リスクに関して認識されている引当金の比率として算出されている。この場合において、提供された保証は考慮されていない。当該カバレッジ比率により、デフォルトに陥っている（回収が懸念される）残高と関連している最大残存リスクを測定することができる。

## 5 - 自己資本利益率（ROE）、有形自己資本利益率（ROTE）、基準自己資本利益率（RONE）

自己資本利益率（ROE）および有形自己資本利益率（ROTE）の概念ならびにこれらの算出方法は、ソシエテ・ジェネラルの2024年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の43ページおよび44ページに記載されている。当該数値により、ソシエテ・ジェネラルの自己資本利益率および有形自己資本利益率を評価することが可能となる。

基準自己資本利益率（RONE）は、ソシエテ・ジェネラルの2024年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の44ページに記載されている原則に基づき、当グループの事業部門に配分される平均基準資本の利益率を特定する。

比率の分子として使用されるグループ当期純利益は、「超劣後債および永久劣後債の保有者への支払利息、発行時額面超過額償却額」の調整後の帳簿上のグループ当期純利益である。ROTE に関しては、利益はのれんの減損を修正再表示している。

当期における ROE および ROTE を算出するために行った帳簿上の資本に対する修正は、下表に詳述されている。

### ROTE の算出：算出方法

| 期末（単位：百万ユーロ）  | 2024 年<br>第 1 四半期 | 2023 年<br>第 1 四半期 |
|---|-------------------|-------------------|
| 株主資本、グループ持分   | 67,342            | 68,747            |
| 超劣後債および永久劣後債  | (10,166)          | (10,823)          |
| 超劣後債および永久劣後債の保有者への未払利息、<br>発行時額面超過額償却額 <sup>1</sup> | (71)              | (102)             |
| 転換準備金を除くその他の包括利益                                    | 696               | 640               |
| 配当準備金 <sup>2</sup>                                  | (256)             | (421)             |
| N-1 に係る支払配当金  | (999)             | (1,803)           |
| <b>期末 ROE 資本</b>                                    | <b>56,545</b>     | <b>56,238</b>     |
| <b>平均 ROE 資本</b>                                    | <b>56,522</b>     | <b>56,072</b>     |
| のれん平均 <sup>3</sup>                                  | (4,006)           | (3,652)           |
| 平均無形資産  | (2,956)           | (2,876)           |
| <b>平均 ROTE 資本</b>                                   | <b>49,560</b>     | <b>49,544</b>     |
| <b>グループ当期純利益</b>                                    | <b>680</b>        | <b>868</b>        |
| 超劣後債および永久劣後債の保有者への支払利息および<br>未払利息、発行時額面超過額償却額       | (166)             | (163)             |
| のれんの減損の取消し  | -                 | -                 |
| <b>調整後グループ当期純利益</b>                                 | <b>514</b>        | <b>705</b>        |
| <b>ROTE</b>   | <b>4.1%</b>       | <b>5.7%</b>       |

<sup>1</sup> 税引後利息

<sup>2</sup> 支払配当金は、非現金項目を修正再表示し、超劣後債および永久劣後債に係る利息控除後の配当性向 50%に基づいて算出。

<sup>3</sup> 非支配持分に由来するのれんを除く。

**RONE の算出：主力事業部門への平均配分資本（単位：百万ユーロ）**

| (単位：百万ユーロ)                       | 2024 年        | 2023 年        | 増減           |
|----------------------------------|---------------|---------------|--------------|
|                                  | 第 1 四半期       | 第 1 四半期       |              |
| フランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門 | 15,471        | 15,586        | -0.7%        |
| グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門      | 14,835        | 15,793        | -6.1%        |
| 国際リテールバンキング・モビリティ・リーシングサービス部門    | 10,420        | 9,160         | +13.8%       |
| <b>主力事業部門</b>                    | <b>40,726</b> | <b>40,539</b> | <b>+0.5%</b> |
| コーポレートセンター                       | 15,796        | 15,533        | +1.7%        |
| <b>当グループ</b>                     | <b>56,522</b> | <b>56,072</b> | <b>+0.8%</b> |

**6-純資産および有形純資産**

純資産および有形純資産は、当グループの 2024 年度「Universal Registration Document（年次報告書）」の 45 ページの財務情報の基準となる事項の記載にて定義されている。これらを算出するために使用した項目は以下の通りである。

| 期末（単位：百万ユーロ）  | 2024 年<br>第 1 四半期 | 2023 年         | 2022 年         |
|---|-------------------|----------------|----------------|
| 株主資本、グループ持分   | 67,342            | 65,975         | 66,970         |
| 超劣後債および永久劣後債  | (10,166)          | (9,095)        | (10,017)       |
| 超劣後債および永久劣後債の利息、発行時額面超過額償却額 <sup>1</sup>              | (71)              | (21)           | (24)           |
| トレーディングポートフォリオ上で当グループが保有する当行株式の帳簿価額                   | 54                | 36             | 67             |
| <b>純資産額</b>   | <b>57,158</b>     | <b>56,895</b>  | <b>56,996</b>  |
| のれん   | (4,004)           | (4,008)        | (3,652)        |
| 無形資産  | (2,958)           | (2,954)        | (2,875)        |
| <b>有形純資産額</b>   | <b>50,196</b>     | <b>49,933</b>  | <b>50,469</b>  |
| <b>NAPS（1 株当たり純資産額）の算出に用いられる株数（単位：千株）<sup>2</sup></b> | <b>799,161</b>    | <b>796,244</b> | <b>801,147</b> |
| <b>NAPS（単位：ユーロ）</b>                                   | <b>71.5</b>       | <b>71.5</b>    | <b>71.1</b>    |
| <b>1 株当たり有形純資産額（単位：ユーロ）</b>                           | <b>62.8</b>       | <b>62.7</b>    | <b>63.0</b>    |

<sup>1</sup> 税引後利息

<sup>2</sup> 考慮された株数は期末時点で発行済の普通株式（ただし、自己株式および自社株買いを行った株式を除くが、トレーディング目的で当グループが保有する株式を含む。）の数である。

## 7. 1 株当たり利益 (EPS) の算出

ソシエテ・ジェネラルが発表する 1 株当たり利益は、国際会計基準 (IAS) 第 33 号に定義されている規定に従って算出されている (ソシエテ・ジェネラルの 2024 年度「Universal Registration Document (年次報告書)」の 44 ページを参照のこと。)。1 株当たり利益を算出する際に行ったグループ当期純利益の修正は、ROE および ROTE を算出する際に行った修正再表示に対応するためである。

1 株当たり利益の算出については、下表に詳述されている。

| 平均株数 (単位：千株)                             | 2024 年<br>第 1 四半期 | 2023 年         | 2022 年         |
|--|-------------------|----------------|----------------|
| 発行済株式                                    | 802,980           | 818,008        | 845,478        |
| 控除                                       |                   |                |                |
| 従業員に与えられたストックオプションおよび無償株式を補填するために配分された株式 | 5,277             | 6,802          | 6,252          |
| その他の当行株式および自己株式                          | 0                 | 11,891         | 16,788         |
| <b>EPS 算出に用いられた株数<sup>1</sup></b>        | <b>797,703</b>    | <b>799,315</b> | <b>822,437</b> |
| グループ当期純利益 (単位：百万ユーロ)                     | 680               | 2,493          | 1,825          |
| 超劣後債および永久劣後債に係る利息 (単位：百万ユーロ)             | (166)             | (759)          | (596)          |
| 調整後グループ当期純利益 (単位：百万ユーロ)                  | 514               | 1,735          | 1,230          |
| <b>EPS (単位：ユーロ)</b>                      | <b>0.64</b>       | <b>2.17</b>    | <b>1.50</b>    |

8. ソシエテ・ジェネラル・グループの普通株式等 Tier1 資本は、適用ある CRR2/CRD5 規制に従い算出されている。全面適用の自己資本比率は、特に明記しない限り、当事業年度における配当控除後の当期利益に対する試算ベースの値である。特に明記しない限り、言及されている段階的適用の比率には、当事業年度における利益は含まれていない。レバレッジ比率も、自己資本比率と同じ根拠に基づき、段階的適用の比率を含み、適用ある CRR2/CRD5 規制に従い計算されている。

<sup>1</sup> 考慮された株数は期間中に発行済みの普通株式 (ただし、自己株式および自社株買いを行った株式を除くが、トレーディング目的で当グループが保有する株式を含む。) の平均数である。



## 9 - 調達貸借対照表、預貸率

調達貸借対照表は、当グループの財務諸表に基づき、以下の2つのステップで作成する。

- 第一ステップ：貸借対照表の経済分析をやすくするため、財務諸表項目をより大きな項目に組み替える。主な組替えの内容は以下の通りである。
  - 保険：保険に関連する会計項目を資産と負債の両方で1つにグループ化。
  - 顧客貸出金：顧客に対する貸出金残高（引当金および評価損控除後、純リース債権残高および損益を通じて公正価値で測定される取引を含む。）を含み、IFRS第9号が規定する条件に従い貸出金および債権に組み替えた金融資産（これらの残高は各々の元の項目に組み替えられている。）を除く。
  - ホールセール資金調達：銀行間取引負債および発行債券を含む。
  - 資金調達取引は、残存期間（1年を超えるか1年未満であるか）に基づいて中・長期資金調達と短期資金調達に振り分けられている。
  - フランス国内リテールバンキングのネットワークが発行した証券の持分（中長期資金調達に計上）、およびカウンターパーティと実施した一定の取引のうち顧客預金と同等のもの（従来は短期資金調達に計上）は顧客預金に組み替えられる。
  - 市場調達に相当する一部の取引は、顧客預金から控除され、短期資金調達に組み入れられる。
- 第二ステップ：保険子会社の貢献分を除外し、デリバティブ、現先取引、有価証券貸借、未払金および「中央銀行預り金」を差し引く。

当グループの預貸率は、調達貸借対照表に記載されている顧客貸出金を顧客預金で除して算出している。

注

- (1) 表および分析に含まれる数値の合計は、四捨五入の誤差により、公表されている数値と僅かに異なる場合がある。
- (2) 当該期間の詳細（英語版）は、以下のホームページの「Investor」のセクションにおいて閲覧可能である。ソシエテ・ジェネラルのホームページ：[www.societegenerale.com](http://www.societegenerale.com)

## ソシエテ・ジェネラル

ソシエテ・ジェネラルは、欧州最大手の金融機関の一つで、12万6,000人を超える従業員を擁し、世界65カ国で約2,500万のお客さまに金融サービスを提供しています。約160年にわたり、法人、機関投資家および個人のお客さまに付加価値の高い多様なアドバイザー・サービスと金融ソリューションを提供し、経済の発展を支えてきました。お客さまとの長きにわたる信頼関係、先進的な専門性、独創的なイノベーション、環境・社会・ガバナンス（ESG）における能力および優れた事業基盤はこれまで受け継がれてきたソシエテ・ジェネラルの企業文化の一部であり、こうした特性がすべてのステークホルダーにとって持続可能な価値を創造するという、当グループの最も重視する目標達成の下支えとなっています。

当グループは、相互に補完し合う3つの主力事業部門から構成されており、すべてのお客さまに環境・社会・ガバナンス（ESG）サービスを提供しています。

- **フランス国内リテールバンキング・プライベートバンキング・保険部門**：大手リテールバンクおよび保険事業、プレミアムなプライベートバンキング・サービスならびに大手デジタルバンクであるブルソバンクで構成されています。
- **グローバルバンキング・インベスターソリューションズ部門**：株式デリバティブ、ストラクチャードファイナンスおよび環境・社会・ガバナンス（ESG）においてグローバル市場における主導的地位にあり、お客さまのニーズに応じたソリューションを提供する最高水準のホールセールバンクです。
- **国際リテールバンキング・モビリティ・リーシングサービス部門**：安定した基盤をもつユニバーサルバンク（チェコ共和国、ルーマニア、アフリカ域内数カ国）および専門的な財務活動と持続可能なモビリティのグローバルプレイヤーである Ayvens（ALD／リースプランの新ブランド）で構成されています。

ソシエテ・ジェネラルは、お客さまとともに持続可能なより良い未来を構築することを使命とし、環境変動とサステナビリティ全般における主導的パートナーになることを目指しています。当グループは、社会的責任投資指数の代表格であるダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス（欧州）、FTSE4Good（世界および欧州）、ブルームバーグ男女平等指数、リフィニティブ・ダイバーシティ&インクルージョン・インデックス、Euronext Vigeo（欧州およびユーロ圏）、ストックス・グローバル・ESG・リーダーズ・インデックスおよび MSCI 低炭素リーダーズ指数（世界および欧州）の構成銘柄です。

詳しくは当グループのウェブサイト [www.societegenerale.com](http://www.societegenerale.com) をご覧ください。